

養護採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 (例) | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 | |
|------|---|---|------|------|
| 1 | (ア) 保持増進 | | 各3×8 | |
| | (イ) 環境衛生検査 | | | |
| | (ウ) 計画 | | | |
| | (エ) 換気 | | | |
| | (オ) 基準 | | | |
| | (カ) 毎学年定期 | | | |
| | (キ) 学校環境衛生基準 | | | |
| | (ク) 臨時 | | | |
| 2 | 1 家庭における健康観察を踏まえて、学校生活を送るに当たり 支障があるかどうかについて疾病をスクリーニングし、健康状 態を把握する。 | 順序は問わない。 内容を正しくとらえていれ ば、表現は異なってもよ い。 | 各4×2 | |
| | 学校における健康課題を明らかにして健康教育に役立てる。 | | | |
| | 2 | (ア) 密接 | | 各3×8 |
| | | (イ) 背 | | |
| | | (ウ) 直立 | | |
| | | (エ) 体側 | | |
| | | (オ) 正位 | | |
| | | (カ) 静止 | | |
| | | (キ) 控除 | | |
| | | (ク) 運動器 | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が 発達する時期があること。また、発育・発達の時期的な程度には、 個人差があること。 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟 すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要 となること。 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験な どの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、 自己の認識が深まり、自己形成がなされること。 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求 やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、 心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要 があること。 | 内容を正しくとらえていれ ば、表現は異なってもよ い。 | 20 | |

養護採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 [例] | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 | | | |
|------|--|---|------------------|---|----|------------------|
| 4 | (ア) 角膜 | | 各 4 × 6 | 24 | | |
| | (イ) 水晶体 | | | | | |
| | (ウ) 網膜 | | | | | |
| | (エ) 強膜 | | | | | |
| | (オ) 視神経 | 視神経束 もよい。 | | | | |
| | (カ) 硝子体 | | | | | |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に健康相談を位置付け、計画的に実施すること。 ・状況に応じて計画的又は随時に行うこと。 ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師等の医療的見地から行う場合は、事前の打合せを十分に行い、相談の結果について養護教諭、学級担任等と共通理解を図り、連携して支援を進めていくこと。 ・健康相談の実施について、児童生徒、保護者及び教職員に周知を図ること。 ・児童生徒、保護者等が相談しやすい環境を整えること。 ・相談場所は、プライバシーが守られるように十分配慮すること。 ・継続支援が必要な者については、校内組織及び必要に応じて、関係機関と連携して実施すること。 ・問題の本質を見極めた上で、カウンセリングで解決できるものと医療的な対応が必要なものとがあることを認識し対応すること。 ・健康観察をはじめ情報の収集に当たり、関係機関等と連携して的確な問題把握に努めること。 | 5つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 各 4 × 5 | 20 | | |
| 6 | 1 | (ア) 脳血流 | | 各 2 × 5 | 26 | |
| | | (イ) 発汗 | | | | |
| | | (ウ) 塩分 | | | | |
| | | (エ) 脱水 | | | | |
| | | (オ) 意識障害 | | | | |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・衣服をゆるめて楽にする。 ・本人が楽な体位にするが、顔面が蒼白で脈が弱い時には、足を高くした体位にする。 ・意識があり、吐き気や嘔吐等がなければ、水分補給をさせる。経口補水液やスポーツ飲料か、薄い食塩水等を飲ませる。 ・皮膚の温度が高いときには、うちわや扇風機等で風を送ったり、服や下着の上から水をかけたりすることや、氷のう等を前頸部の両脇、腋窩部、鼠径部に当てることにより、体温を下げる。 ・皮膚が冷たかったり、震えがあったりするときには、乾いたタオル等で皮膚をマッサージする。 ・自力で水分の摂取ができないときや、熱射病の症状があるときは、緊急で医療機関に搬送する。 ・意識がもうろうとしている、体温が極端に高い等の症状がある場合は、ただちに119番通報し、救急隊が到着するまで体を冷やす。 ・熱痙攣や熱疲労の症状がおさまらないときは、できるだけ早く医師の診察を受けさせる。 ・意識がないときは、一次救命措置の手順により手当を行う。 | | 4つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | | 各 4 × 4 |

養護採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

| 問題番号 | 正 答 (例) | 採 点 上 の 注 意 | 配 点 | |
|------|---------|---|---|----|
| 7 | 学級担任等 | <ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じた子ども向けの啓発資料を作成し、学級活動で活用してもらうよう依頼する。 朝の健康観察をはじめ、日常における健康観察の強化を依頼する。 健康観察結果を分析し、全教職員へ情報提供する。 日々の子どもの対応での気付きも含めて、情報交換を密にする。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 24 |
| | 保護者 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭での健康観察の強化を依頼する。 心のケアに関する相談希望調査を行い、保護者に対して健康相談を実施する。 保健だよりなどの啓発資料を配布し、心のケアに関する基本的な対応方法等について保護者に理解してもらう。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | |
| | 児童生徒 | <ul style="list-style-type: none"> 心のケアに関する相談希望調査を行う。 潜在的な心身の健康問題を把握するため心身の健康状態を確認するための質問紙調査を実施する。 日常の健康観察の結果、子どもや保護者からの相談の申し出、相談希望調査から必要と思われる子どもに健康相談を実施する。 心のケアに関する個別の保健指導を実施する。 学年集会や全校集会等において、心のケアに関する全体指導を実施する。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | |
| | 学校医・SC | <ul style="list-style-type: none"> 専門機関との連携が必要と思われる子どもについては、医師の紹介や受診相談等をしてもらう。 健康観察の結果や保健室来室者の様子などの情報提供を行う。 学校医による健康相談の実施を依頼する。 医療的な見地から学校への支援の依頼をする。 スクールカウンセラーによる子どもや保護者へのカウンセリングの実施を依頼する。 教職員への個別の支援への助言を依頼する。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | |
| 8 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者に学校生活管理指導表を配布し、主治医による記載を依頼し、学校への提出をお願いする。 必要に応じて、詳細な資料の提出を依頼する。 アレルギー対応委員会等において関係者ととも、学校生活管理指導表に基づいた、個別の取組プランを立案する。 応急処置の方法や連絡先の確認等の緊急措置方法を立案する。 主治医、学校医、医療機関との連携を図り、応急処置の方法や連絡先を事前に確認する。 関係者ととも個別面談を行い、保護者と取組プランについて協議し、取組プランを決定する。 教職員全員に取組プランを周知する。 全教職員が本児の疾病に対して正しい知識を持ち、緊急時に備えるため校内全体で研修と訓練を行う。 | 4つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | 30 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> アレルギー症状を起こさないようにするため、牛乳や乳製品は身体に悪いので食べないようにすることを指導する。 アレルギー症状を起こさないようにするため、牛乳が入っているか分からないときは大人に聞くよう指導する。 皮膚に赤いポツポツやかゆみなどの症状が出たときはすぐに周りの大人に知らせるか、保健室に来るように指導する。 アドレナリン自己注射薬や内服薬の保管場所を児童とともに確認し、必要時に大人に知らせることを指導する。 本児の理解度を把握した上で、内服薬及びアドレナリン自己注射薬の使い方について説明する。 乳製品について、サンプル等を見せながら指導する。 牛乳パックの解体、洗浄、回収する際に、牛乳が周囲に飛び散り、皮膚に接触する可能性があるため、近寄らないよう指導する。 給食等のおかわり等を含む喫食時の注意や、配膳片付け時の注意点について指導する。 | 2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 | |